

令和 7 年 1 1 月 食品ロス実態調査報告書
秋田市食品ロス実態調査報告書

令和 8 年 1 月 6 日 発行

1 実施概要

■実施日時	令和 7 年 1 1 月 2 0 日（木）、2 1 日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター
■作業時間	8：30～17：00（昼食休憩 1 時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ 1 4 名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ 6 名（食品ロス調査）
■調査資料	<ul style="list-style-type: none">・表記調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ 100 袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。・調査資料である 100 袋の地区別の収集数は、中央、東部、西部、南部、北部、河辺・雄和の 6 地区の人口構成比により以下のとおりとした。 【1 1 月 2 0 日】 中央（檜山 11 袋）、東部（東通 10 袋）、西部（新屋元町又は日吉町 5 袋）、南部（御所野 8 袋）、北部（下新城 中野 6 袋、金足 6 袋）、河辺・雄和（河辺 4 袋） 【1 1 月 2 1 日】 中央（川尻 6 袋、大町 6 袋）、東部（添川 4 袋、旭川 4 袋）、西部（新屋勝平町 6 袋）、南部（上北手 8 袋）、北部（飯島 12 袋）、河辺・雄和（雄和 4 袋）・調査資料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100 世帯分程度のごみ袋又は生ごみで 100kg～150kg 程度」としていることを踏まえ、上記 100 袋に含まれていた生ごみ約 120kg とした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる 100 袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重量を計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手付かず食品（100% 残存・50% 以上残存・50% 未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は、353.7kg、1 袋あたりの平均重量は約 3.5kg であった。

図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

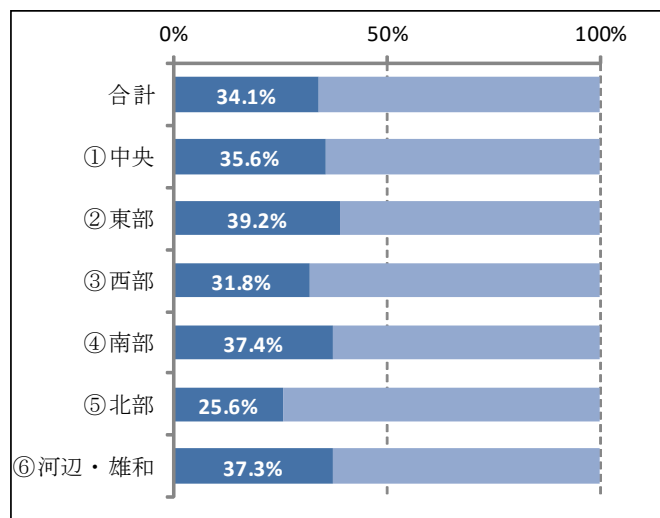
	袋数（個）	重量（kg）	容量（L）	袋あたり	
				重量（kg）	容量（L）
合計	100	353.7	3,580	3.5	35.8
①中央	23	81.3	880	3.5	38.3
②東部	18	63.9	615	3.6	34.2
③西部	11	46.4	370	4.2	33.6
④南部	16	50.1	555	3.1	34.7
⑤北部	24	74.6	855	3.1	35.6
⑥河辺・雄和	8	37.4	305	4.7	38.1

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計割合では、34.1% となっている。

地域別に見ると、②東部地域が最も高く 39.2%、次いで④南部の 37.4%、⑥河辺・雄和 37.3%、①中央の 35.6%、⑤西部の 31.8%、⑤北部の 25.6% となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



	サンプリング試料 A	うち、食品廃棄物 B	食品廃棄物割合 C (=B/A)	食品廃棄物以外 D (=1-C)
合計	353.68	120.59	34.1%	65.9%
①中央	81.33	28.99	35.6%	64.4%
②東部	63.93	25.07	39.2%	60.8%
③西部	46.41	14.78	31.8%	68.2%
④南部	50.11	18.75	37.4%	62.6%
⑤北部	74.55	19.10	25.6%	74.4%
⑥河辺・雄和	37.35	13.92	37.3%	62.7%

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

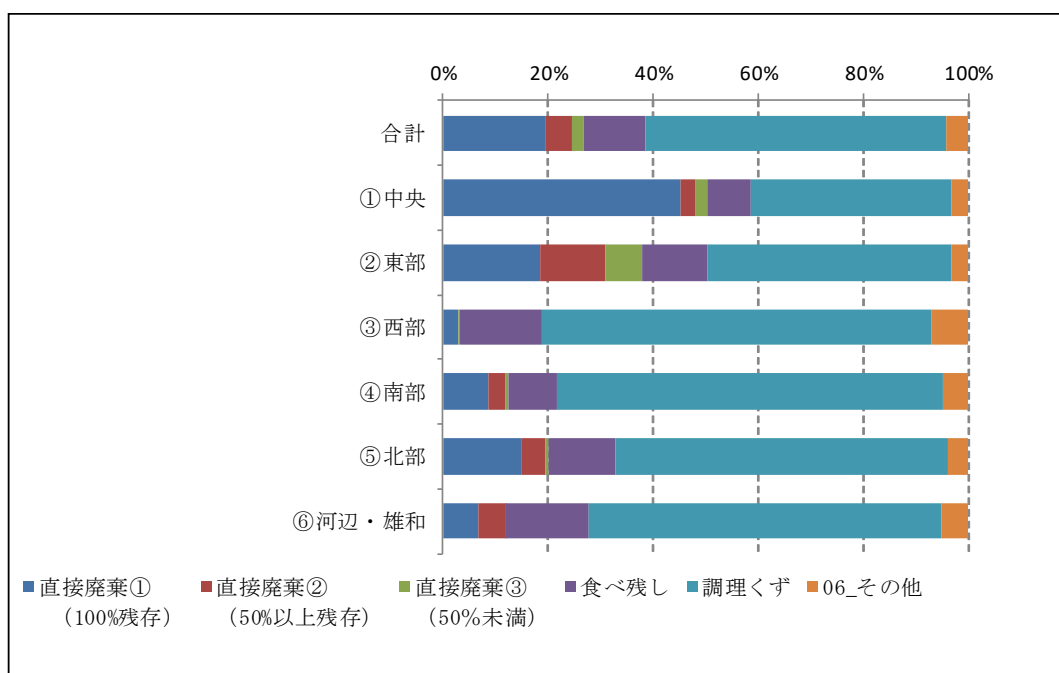
食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表 3）、6 地区の合計割合では 38.5%となっている。

地区別に見ると①中央が最も高く 58.5%、次いで②東部の 50.2%、⑤北部の 32.7%、⑥河辺・雄和の 27.5%、④南部の 21.7%、③西部の 18.7%となっている。

直接廃棄に着目すると、6 地区の合計割合では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち 19.5%を占めており、①中央で 45.0%と高く、次いで②東部が 18.6%、⑤北部が 14.9%、④南部が 8.5%、⑥河辺・雄和が 6.7%、③西部が 2.9%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6 地区の合計割合では 11.7%となっている。⑥河辺・雄和が 15.7%と高く、次いで③西部が 15.5%であり、①中央が最も低く 8.2%となっている。

図表 3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	38.5%	19.5%	5.1%	2.2%	11.7%
①中央	58.5%	45.0%	3.1%	2.2%	8.2%
②東部	50.2%	18.6%	12.2%	7.2%	12.2%
③西部	18.7%	2.9%	0.0%	0.4%	15.5%
④南部	21.7%	8.5%	3.4%	0.5%	9.3%
⑤北部	32.7%	14.9%	4.5%	0.5%	12.8%
⑥河辺・雄和	27.5%	6.7%	5.0%	0.0%	15.7%

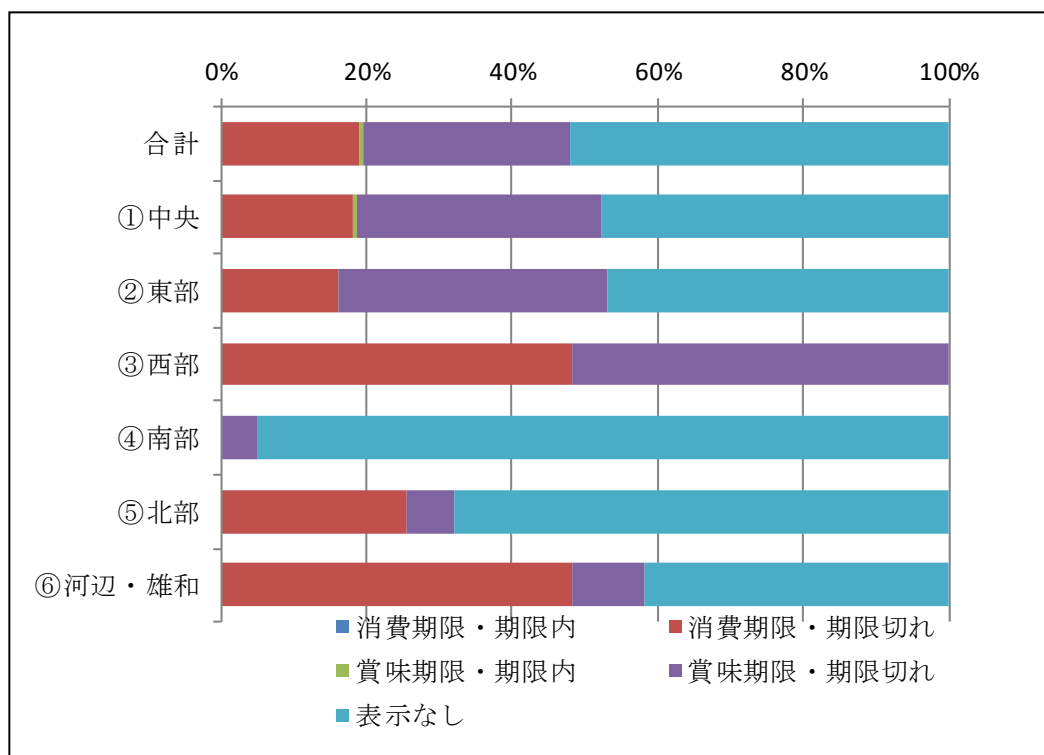
※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計割合では「表示なし」が最も多く52.1%であり、消費期限の表示があったものは19.1%（期限内はなしで、期限切れが19.1%）、賞味期限の表示があったものは28.9%（期限内が0.4%、期限切れが28.5%）となっている。

消費期限に着目すると、（100%手付かず）のうち「期限内」のものはなしで、「期限切れ」については、③西部地区で最も高く48.2%であった。賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち0.4%、地区別に見ると①中央地区だけが0.7%で他の地区では期限内のものはなかった。

図表 4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



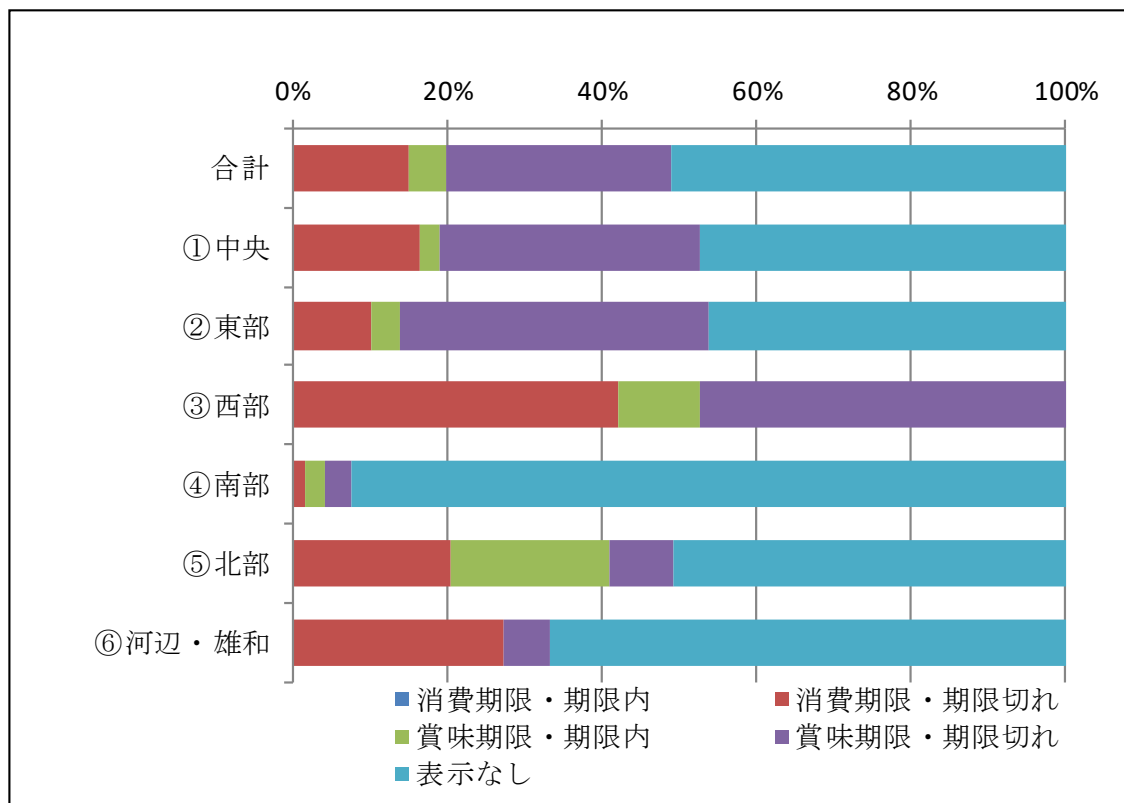
	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	19.1%	0.4%	28.5%	52.1%
①中央	0.0%	18.0%	0.7%	33.6%	47.7%
②東部	0.0%	16.2%	0.0%	36.9%	46.9%
③西部	0.0%	48.2%	0.0%	51.8%	0.0%
④南部	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	95.0%
⑤北部	0.0%	25.5%	0.0%	6.5%	68.0%
⑥河辺・雄和	0.0%	48.1%	0.0%	10.2%	41.7%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表 5）、6 地区の合計では「賞味期限（期限切れ）」が最も多く 29.1%であり、消費期限の表示があったものは 15.0%（期限内は 0.0%、期限切れ 15.0%）、賞味期限の表示があったものは 34.0%（期限内 4.9%、期限切れ 29.1%）となっている。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち 4.9%となっている。地区別に見ると⑤北部地区が最も高く 20.8%となっている。

図表 5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	15.0%	4.9%	29.1%	50.9%
①中央	0.0%	16.6%	2.4%	33.7%	47.3%
②東部	0.0%	10.2%	3.6%	39.9%	46.3%
③西部	0.0%	42.3%	10.3%	47.4%	0.0%
④南部	0.0%	1.7%	2.6%	3.4%	92.3%
⑤北部	0.0%	20.4%	20.8%	8.0%	50.9%
⑥河辺・雄和	0.0%	27.4%	0.0%	5.8%	66.8%

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が 100%にならない場合がある。

(4) 一人 1 日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和 6 年度の実績を参考に一人 1 日当たりの食品ロス発生量を推計すると 61.9g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が 43.1g/人/日、食べ残しが 18.8g/人・日と推計された。

図表 6 一人 1 日当たりの食品ロス発生量（秋田市）

